

## 第2学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)

授業者 〇 〇 〇 〇

### 1 主題名

集団生活の充実と自分の成長 「C-(15) よりよい学校生活, 集団生活の充実」

### 2 ねらいと教材

#### (1) ねらい

集団生活の充実に努めることの意義について理解し, 集団の中で自分の役割を果たし, 集団生活の充実と自己の成長の両方を実現しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

#### (2) 教材名

「明かりの下の燭台」(講談社 なせば成る!)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

学校における集団生活の充実とは, 学校独自の校風を継承し, 更に発展させ, よりよい校風をつくることである。また, 仲間と互いに協力し合う関係を築き, 自己の人間的な成長につなげることも大切である。

そのためには, まず, 自分が所属する集団の意義を理解し, その中で自分の役割や責任を自覚する必要がある。そして, 協力することで得られる達成感や集団の中で自分よさを発揮する充実感を味わうことにより, 集団生活の充実に努めようとする主体性を育むことにつながると考える。

#### (2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の生徒は, これまでの学校生活において, 集団生活の中で自分の役割を果たすことの大切さについて理解している。しかし, 自分の思いを優先させてしまい, 与えられた役割を果たすことができていない場面が見られる。例えば清掃の取組である。自分の役割があるにも関わらず, 「面倒くさい」「誰かがやってくれるだろう」という思いから, 取り組むのが遅かったり, 友人との話に夢中で作業が雑になったりすることがある。生徒の実態を踏まえると, 集団生活の充実という道徳的価値に対して, 理解はありつつも, 実現できていないという道徳的な問題が考えられる。

集団生活の充実とは, 自己を犠牲にした消極的なものではなく, 自分自身の成長にもつながるということに気付かせたい。集団生活の充実を努める意義について考え, 仲間と協力し, 集団生活の充実と自己の成長を同時に実現していこうとする道徳的実践意欲と態度を育てていきたい。

#### (3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は, バレーボール日本代表チームを支えるマネージャーの奮闘に関する話である。主人公の鈴木さんは, バレーボール選手としてオリンピックを目指していた。しかし, ある日, 監督からマネージャーの依頼を受ける。鈴木さんは悩んだ末にマネージャーになることを決意する。マネージャーになってからは一切愚痴を言わず, 4年間チームのために尽力する。

本時の指導に当たっては, 授業当日の朝, 生徒に資料を読ませておき, 内容を理解させ, 授業中の考える時間を確保する。授業では, 監督からマネージャーを依頼され, 葛藤する主人公の心情に共感させる。生徒には, 「選手として活躍したい」という主人公の気持ちを自分との関わりで考えさせる。中心場面は, 選手以上の苦労があったにも関わらず, 4年間愚痴を一切言わず, マネージャーの仕事をやりにきる場面に設定する。選手としてプレーすることとマネージャーとして働くことは, どちらも「チームのために力を発揮する」という共通の目的があることに気付かせ, 集団生活の充実にはどのような考えが必要なのか, 深く考えさせる。

4 学習指導過程

	<p>学習活動</p> <p>○主な発問（◎中心発問）・予想される反応</p>	<p>指導上の留意点</p>
<p>導入 5分</p>	<p>1 本時のねらいとする道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ 集団生活を充実させるために大切なことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守ることです。</li> <li>・相手の気持ちを考えることです。</li> <li>・自分の仕事をしっかりとやることです。</li> </ul> <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>集団生活を充実させるためには、どのような考えが必要か。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいについて問題意識を持たせるために、導入で集団生活を充実させることについての生徒の考えを取り上げる。生徒から出された考えは、授業後半、集団生活の充実についての生徒の考えの変容を捉えさせる場面で活用する。</li> <li>・本時の課題に対して生徒が考える必然性を持てるように、授業後に予定している新人大会や合唱コンクールと関連させて課題を提示する。</li> </ul>
<p>展開 37分</p>	<p>3 集団生活を充実させるために必要なことについて考える。</p> <p>○ 監督からマネージャーを依頼されたときの鈴木さんは、どのような気持ちだったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選手としてプレーをしたいという気持ちだったと思います。</li> <li>・マネージャーをやりたくないという気持ちだったと思います。</li> <li>・自分はチームに必要なのかという気持ちだったと思います。</li> <li>・選手として認めてもらえなくて悔しいという気持ちだったと思います。</li> <li>・どうして私がマネージャーをやらなければならないのかという気持ちだったと思います。</li> <li>・自分以外の人がマネージャーをやればいいのかという気持ちだったと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が資料の内容を理解した上で発問について考えられるよう、教材の挿絵を活用して資料の内容を確認する。</li> <li>・主人公の心情について考えさせるために、範読を聞くときの視点を与える。</li> <li>・選手として活躍したいという思いを諦め、マネージャーになることを決意する鈴木さんの心情を捉えさせるために、監督からマネージャーを依頼されたときの鈴木さんの心情を考えさせる。</li> <li>・生徒の本音を引き出すために、問い返しの発問を準備しておく。</li> <li>・マネージャーを引き受けるかどうか悩む鈴木さんの心の葛藤を表面的に読み取っている学習状況が見られるときの問い返しの発問</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうして自分がマネージャーをやらなければいけないのか、自分以外の人がマネージャーではダメなのかとは思わなかったのでしょうか。</li> <li>・自分だったらマネージャーを依頼されたらどのような気持ちになりますか。</li> <li>・自分だったらマネージャーを引き受けますか。それは、どうしてですか。</li> <li>・選手としてプレーしたいという気持ちとマネージャーとして頑張らなければならないという気持ちはどちらが強いと思いますか。</li> </ul> </div>

◎ マネージャーとして、4年間、文句を一切言わずに頑張った鈴木さんを支えたものは何だったのでしょうか。

- ・チームのために力になりたいという気持ちだと思います。
- ・自分の役割を果したいという気持ちだと思います。
- ・チームに勝ってほしいという気持ちだと思います。

○ 選手、マネージャーと立場が変わっても、鈴木さんの中で変わらないものは何だと思いますか。

- ・バレーボールが好きという気持ちです。
- ・チームのために役に立ちたいという気持ちです。

○ 優勝しても金メダルをもらえなかった鈴木さんが、4年間のマネージャーとしての活動を通して得たものは何だと思いますか。

- ・選手からの信頼だと思います。
- ・人のために働くことへのやりがいだと思います。
- ・達成感だと思います。
- ・誇りだと思います。

・生徒の考えが「自分だったら選手としてプレーしたい」に偏ったときに、集団生活の充実について考えさせるための問い返しの発問

・みんながやりたいことを主張したら、チームとしてうまくいくと思いますか。

・生徒の考えが「自分だったらマネージャーを引き受ける」に偏ったときに、個人の欲求について考えさせるための問い返しの発問

・選手としてプレーしたいという気持ちを持つことはダメなことなのですか。

・集団のためには、選手個人の気持ちは必ず我慢しなければならないのですか。

・集団生活の充実には、どのような考えが必要なのかに気付かせるために、4年間マネージャーの仕事に尽力した鈴木さんの心情を考えさせる。

・マネージャーの仕事をやり抜こうとする鈴木さんの決意の強さについて、表面的に読み取っている学習状況が見られるときの問い返しの発問

・選手のために、ここまでする必要はあったのでしょうか。マネージャーとして必要なことをやるだけではダメなのでしょうか。

・もし、鈴木さんが愚痴を言っていたら選手はどのように感じたと思いますか。

・マネージャーの仕事を頑張っても誰かに褒めてもらえるわけではないのに、4年間続けられたのはどうしてでしょうか。

・集団生活の充実は、立場に限らず、同じ目標を持つことが大切であることに気付かせるために、選手、マネージャーの立場のときの気持ちの共通点について考えさせる。

・集団生活の充実を実現することで、自己の成長につながることに気付かせるために、マネージャーの仕事をやり切ったときの鈴木さんの心情を考えさせる。

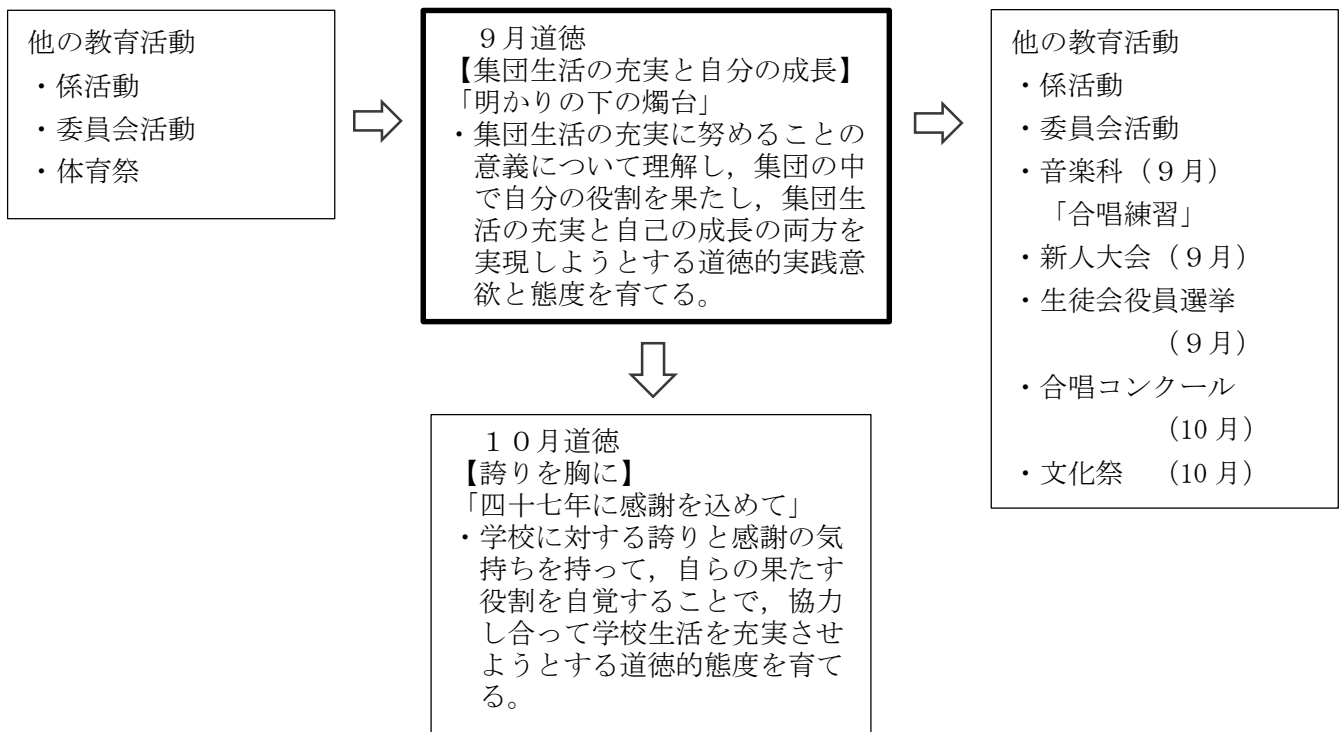
・導入で考えた集団生活の充実についての考えが、授業を通して深まったことを確認するために、導入との比較を板書で行う。

終 末 8 分	<p><b>4 自己の生き方について考える。</b></p> <p>○ 集団生活を充実させるためには、どのような考えが必要か自分の考えを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団生活を充実させるためには、周りの人が見ていなくても、自分の役割を果たすことが必要だと思います。</li> <li>・ 集団生活を充実させるために頑張ることで、自分自身も達成感を味わうことができると思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己の生き方について考えを深めさせるために、書く活動を取り入れる。</li> </ul>
------------------	---	---

**【評価】**

集団生活の充実について、自分との関わりの中で考える学習を通して、これからの生き方に生かそうとしていたか。

**5 他の教育活動との関連**

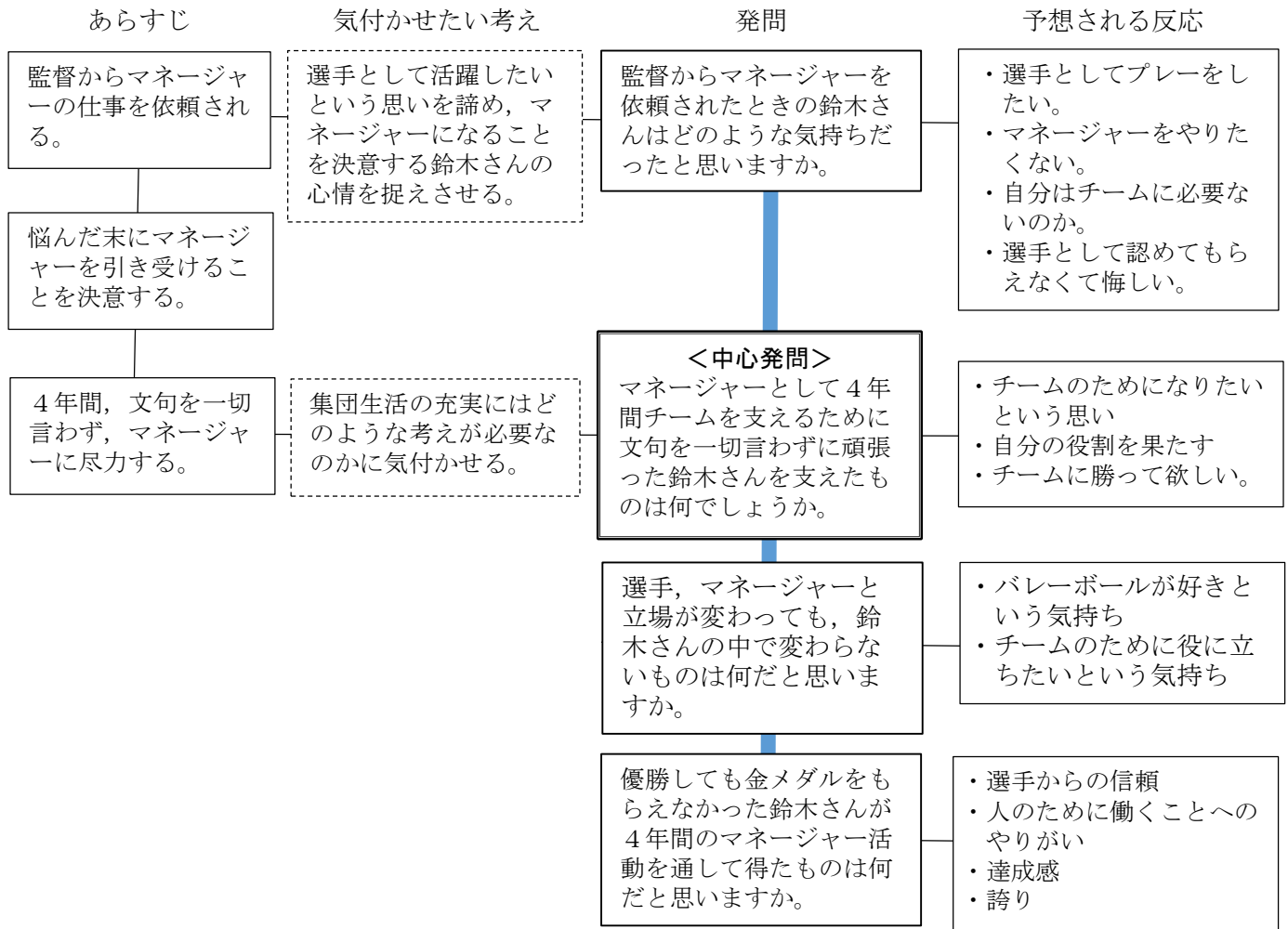


**6 補充・深化・統合の視点【深化】**

「集団生活の充実」という道徳的価値について、生徒は学校行事や部活動等、様々な教育活動を通して学んできている。

本時は、生徒の実態を踏まえ、集団生活の充実には自分の役割を果たすという責任感だけではなく、自分の役割に対してやりがいを感じることも大切であることに気付かせる授業である。役割を果たすことで得られる達成感は、集団の中で自分のよさを発揮することや自身の資質・能力を向上させることにつながる。「集団生活の充実」という道徳的価値についての生徒の考えを、本時の授業を通してより一層深めていきたい。

## 7 教材分析・発問構成



## 8 準備物

教師：教科書，教科書挿絵，学習プリント

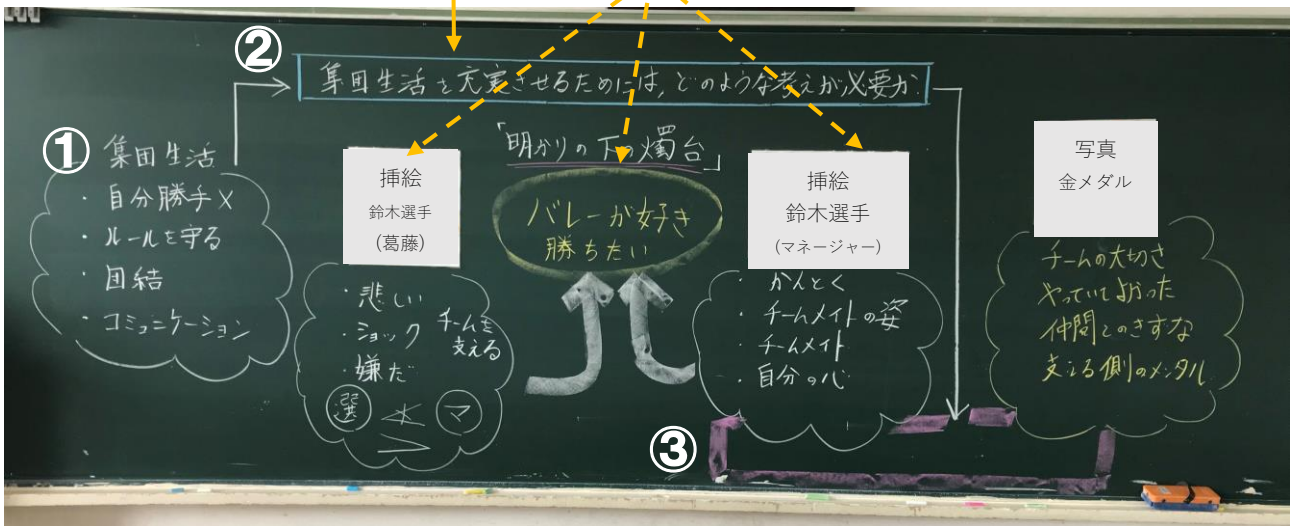
生徒：筆記用具

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】

①授業開始時の生徒の考え, ②本時の課題, ③終末の生徒の考えを構造的に板書に示した。

マネージャーを依頼されたときの葛藤, マネージャーを決意した後の心情, 選手・マネージャーの立場に関係なく, 変わらない思いを示した。



(1) 導入

授業開始時に, ねらいとする道徳的価値に関する生徒の考えを發表させた

授業後半に, ねらいとする道徳的価値についての考えの深まりを生徒に実感させたいと考え, 授業開始時に「集団生活を充実させるためにはどのようなことが大切か」と問い, 授業後半は, 「金メダルをもらえなかった鈴木さんは何をすることができたのだろう」と発問した。

○ 授業開始時の生徒の考えは, 自分勝手な行動はしない, ルールを守る等の内容だった。授業後半の生徒の考えは, 達成感, 使命感, 仲間との絆, 自分自身のメンタルという内容だった。一部, 団結と仲間との絆のように似たような考えのものもあったが, 授業開始時と授業後半で比較することで, 生徒に考えの深まりを実感させることができた。

(2) 展開

生徒の考えを深めさせるために, 問い返しをした

「自分だったらマネージャーを引き受けるか」と発問した際, 生徒全員が引き受けないと答えた。その理由として, 「バレーボールをやるために合宿に参加した」「最後までプレーしたい」という考えが出された。主人公のマネージャーを引き受けるまでに至った心情に共感させるために, 「全員が自分のやりたいことを主張したらチームはどうなるのだろう」と問い返した。

○ 問い返しに対して, 生徒から「監督以外にチームを支える人がいなくなってしまうから, チームを支えきれなくなってしまう」「チームが崩壊してしまう」等の考えが出された。問い返しによって, 選手としてプレーしたいという気持ちとチームを支えなければならないという主人公の葛藤について考えさせることができた。

### (3) 終末

#### 自己の生き方について考えを深めさせるために書く活動を取り入れた

「集団生活を充実させるためにはどのような考えが必要か」という課題について、自分の考えを書かせた。以下に、生徒の考えを紹介する。

##### 生徒の感想

- ・ 集団生活は信頼関係、仲間との絆が大切だと思った。支えている人がいることを忘れないようにしたい。
- ・ 自分中心に考えるのではなく、常に周りの仲間のことを考えて、自分はどうすればいいのか、どうすれば良い方向へと行けるのかをよく考えることが大切だと思った。そして、自分も全力で頑張れるようなことをすると良いと思った。
- ・ 私は仲間がいて当たり前と思っていた。けれど、この話を読んでみて、改めて仲間がいるからこそできることがたくさんあることに気付くことができた。相手を思う気持ちや感謝する心をもって集団生活をしていこうと思った。
- ・ 集団生活では支える立場の責任感や支え合うことが大切だと思う。
- ・ 仲間を支え、頑張るためには、仲間との絆や使命感が必要だと思った。自分はそういう考えがなかったので、これから大切にしていきたい。
- ・ 一人一人がチームのために何ができるのかを考えて、積極的に行動していくことが大切だと思った。特に、マネージャーのように支えてくれる人がいれば充実すると思う。常に支えてくれる人に感謝の気持ちを持つことが大切だと思う。自分も鈴木さんのように、チームに、プレーだけではなく、他のことでも貢献できるような人になりたい。目標を持ち、その目標に向かってどんな立場でも一生懸命できることを行いたい。